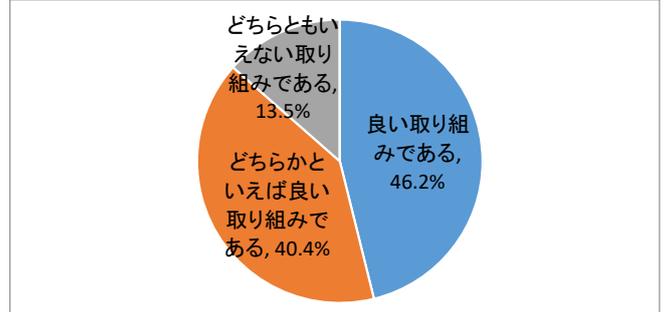


令和5年度 土木設計業務総合評価方式に係る入札参加者アンケート

総合評価方式での入札参加について

設問1 土木設計業務における総合評価方式の運用について、どう思いますか。

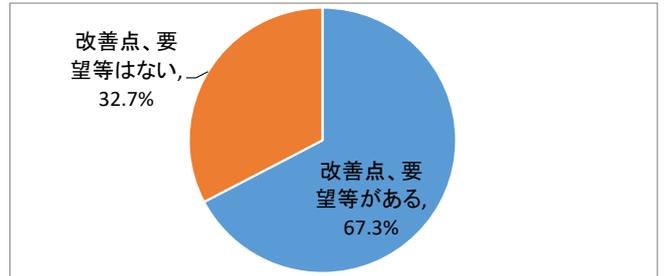
	回答	割合
良い取り組みである	24	46.2%
どちらかといえば良い取り組みである	21	40.4%
どちらともいえない取り組みである	7	13.5%
どちらかといえば悪い取り組みである	0	0.0%
悪い取り組みである	0	0.0%
合計	52	100.0%



総合評価方式について

設問2 現在の総合評価方式について、改善が必要と思われる点や要望がありますか。

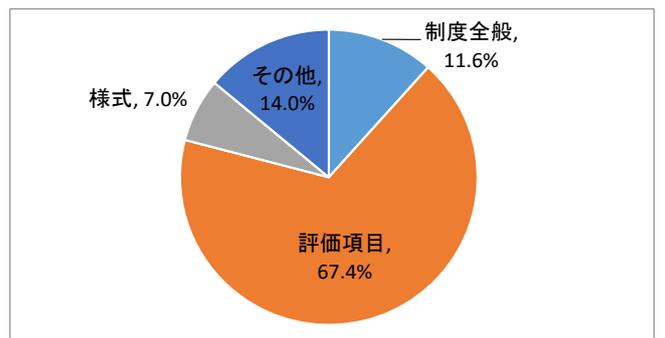
	回答	割合
改善点、要望等がある	35	67.3%
改善点、要望等はない	17	32.7%
合計	52	100.0%



設問3 改善が必要と思われる、又は要望があるのはどのような点ですか。(複数回答可)

	回答	割合
制度全般	5	11.6%
評価項目	29	67.4%
様式	3	7.0%
入札説明書	0	0.0%
その他	6	14.0%
合計	43	100.0%

※「その他」の具体的な意見は、最後の記述欄に記載

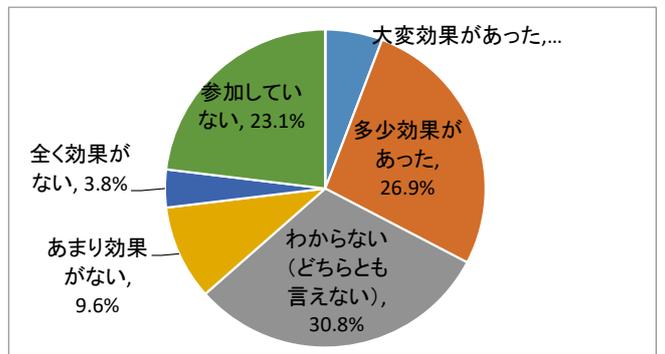


自己採点方式の実施状況について

簡易型の実績重視型では、自己採点方式を採用しております。今後の改善のため、自己採点方式の運用状況についてお伺いします。

設問4 『自己採点方式』は事務負担の軽減に効果がありましたか。

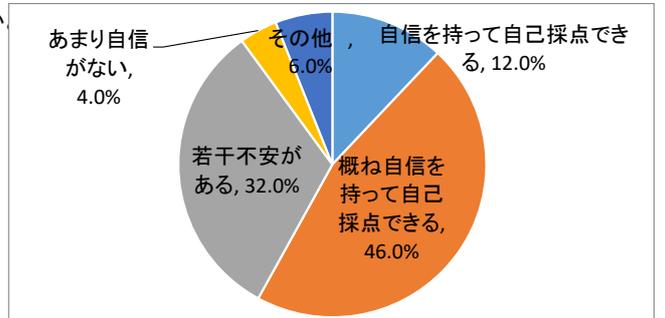
	回答	割合
大変効果があった	3	5.8%
多少効果があった	14	26.9%
わからない(どちらとも言えない)	16	30.8%
あまり効果がない	5	9.6%
全く効果がない	2	3.8%
参加していない	12	23.1%
その他	0	0.0%
合計	52	100.0%



設問5 自己採点申請書に記載する「自己採点」について、どのように感じていますか。

	回答	割合
自信を持って自己採点できる	6	12.0%
概ね自信を持って自己採点できる	23	46.0%
若干不安がある	16	32.0%
あまり自信がない	2	4.0%
その他	3	6.0%
合計	50	100.0%

※「その他」の具体的な意見は、最後の記述欄に記載

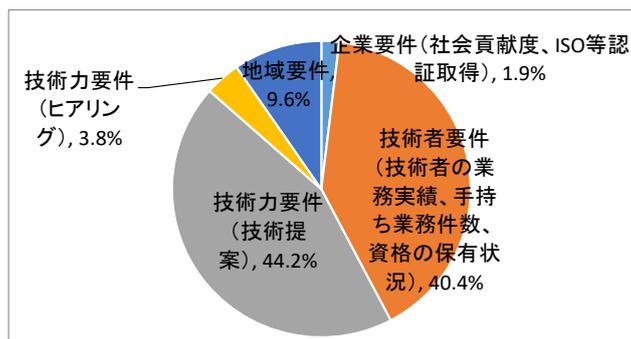


評価項目【企業】について

設問6 企業の評価項目として、貴社が重きを置くべきと考える順を記載してください。

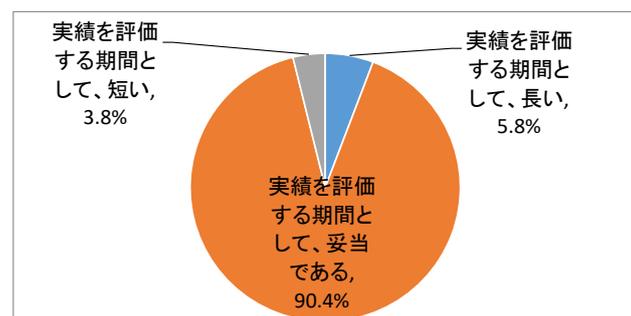
<順位1>

	回答	割合
企業要件(社会貢献度、ISO等認証取得)	1	1.9%
技術者要件(技術者の業務実績、手持ち業務件数、資格の保有状況)	21	40.4%
技術力要件(技術提案)	23	44.2%
技術力要件(ヒアリング)	2	3.8%
地域要件	5	9.6%
合計	52	100.0%



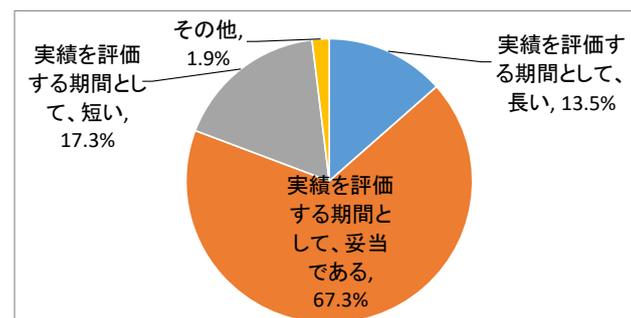
設問7 企業の技術能力、「同種・類似業務の実績」は、「過去10年度間」を評価していることについて伺います。

	回答	割合
実績を評価する期間として、長い	3	5.8%
実績を評価する期間として、妥当である	47	90.4%
実績を評価する期間として、短い	2	3.8%
その他	0	0.0%
合計	52	100.0%



設問8 企業の技術能力、「業務成績評定」は、「過去4年度間の県発注業務の成績評定点の平均点」を評価していることについて伺います。

	回答	割合
実績を評価する期間として、長い	7	13.5%
実績を評価する期間として、妥当である	35	67.3%
実績を評価する期間として、短い	9	17.3%
その他	1	1.9%
合計	52	100.0%

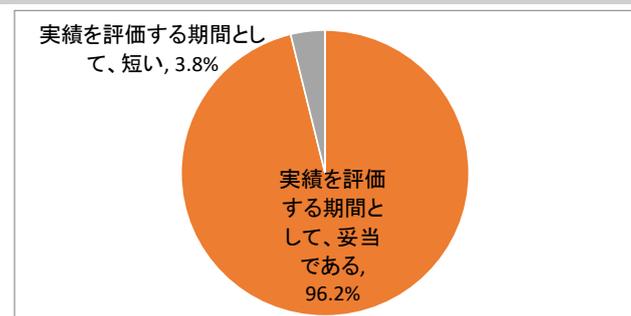


※「その他」の具体的な意見は、最後の記述欄に記載

評価項目【技術者】について

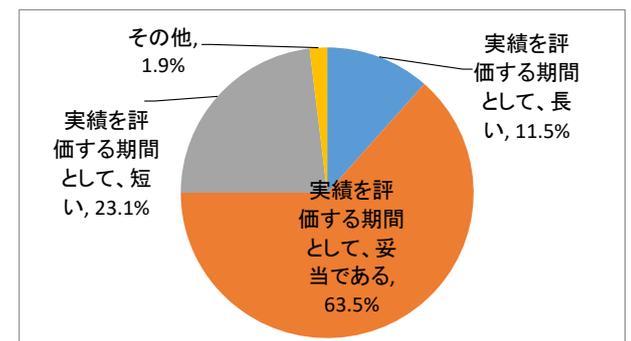
設問9 配置予定技術者の「同種・類似業務の実績」は、「過去10年度間」を評価していることについて伺います。

	回答	割合
実績を評価する期間として、長い	0	0.0%
実績を評価する期間として、妥当である	50	96.2%
実績を評価する期間として、短い	2	3.8%
その他	0	0.0%
合計	52	100.0%



設問10 配置予定技術者の「業務成績評定」は、「過去4年度間の県発注業務の成績評定点の平均点」を評価していることについて伺います。

	回答	割合
実績を評価する期間として、長い	6	11.5%
実績を評価する期間として、妥当である	33	63.5%
実績を評価する期間として、短い	12	23.1%
その他	1	1.9%
合計	52	100.0%



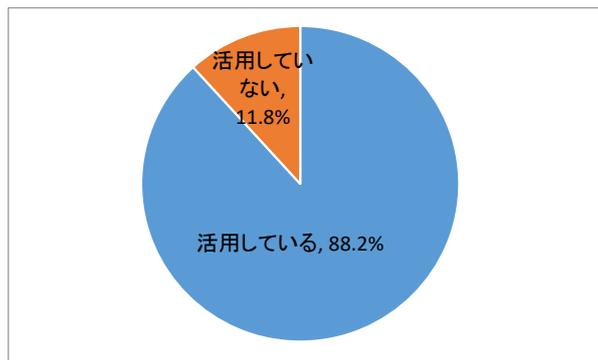
※「その他」の具体的な意見は、最後の記述欄に記載

継続教育(CPD)制度について

設問11 貴社では、継続教育(CPD)制度を活用していますか。

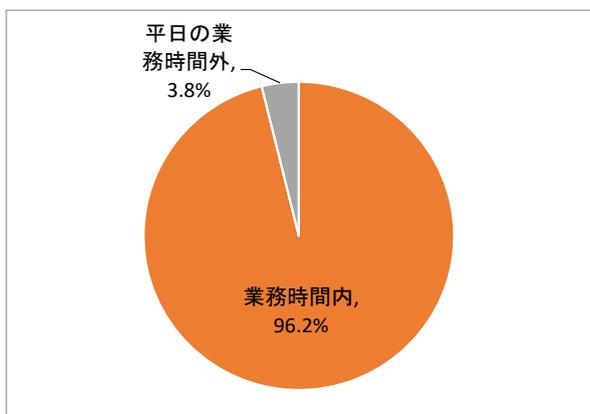
※「社員に年間取得単位を義務づけている」、「社内の昇進・昇給・異動時の資料として活用している」「ISO9001の規格要求事項に対する記録として活用している」など

	回答	割合
活用している	45	88.2%
活用していない	6	11.8%
合 計	51	100.0%



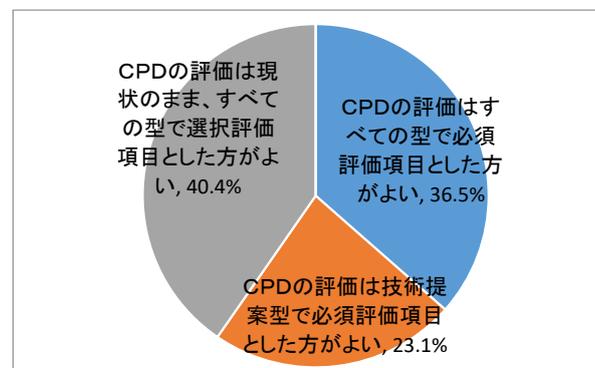
設問12 主にどのような時に受講が多いですか。

	回答	割合
休日	0	0.0%
業務時間内	50	96.2%
平日の業務時間外	2	3.8%
休暇を取得して受講	0	0.0%
合 計	52	100.0%



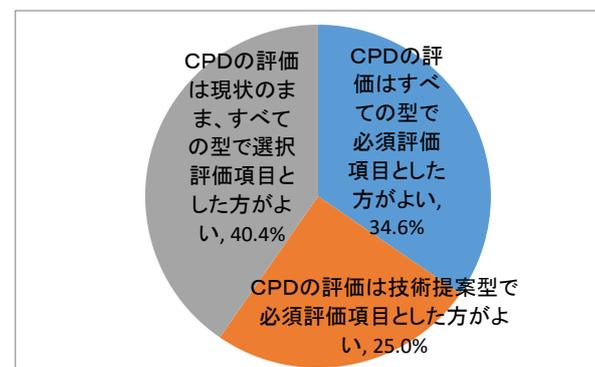
設問13 管理技術者の継続教育(CPD)評価について、どのようにお考えですか。(現在はすべての型で選択評価項目です。)

	回答	割合
CPDの評価はすべての型で必須評価項目とした方がよい	19	36.5%
CPDの評価は技術提案型で必須評価項目とした方がよい	12	23.1%
CPDの評価は現状のまま、すべての型で選択評価項目とした方がよい	21	40.4%
その他	0	0.0%
合 計	52	100.0%



設問14 照査技術者の継続教育(CPD)評価について、どのようにお考えですか。(現在はすべての型で選択評価項目です。)

	回答	割合
CPDの評価はすべての型で必須評価項目とした方がよい	18	34.6%
CPDの評価は技術提案型で必須評価項目とした方がよい	13	25.0%
CPDの評価は現状のまま、すべての型で選択評価項目とした方がよい	21	40.4%
その他	0	0.0%
合 計	52	100.0%



その他

設問15 総合評価方式に関する御意見を自由に記述してください。

※()内は同様の意見数

(事務負担軽減について)

提出資料について様式の確認に時間を要している。事前の調達資料として提供してもらいたい。(3件)

事後審査書類作成の作業軽減(3件)

例 技術提案書の枚数を減じてほしい。

例 手持ち業務量が5件以上で配点が0点でも、手持ち案件全件のテクリス写しを提出しなければならない。

例 企業、技術者の同種業務のテクリス写しは、不要としてほしい。

提出する資料を分かりやすくしてほしい。(2件)

事後審査資料の提出後から契約手続きに非常に長い時間を要するため改善してほしい。

(総合評価方式の発注について)

くじ引きが多いため、地域の担い手確保、防災対応等の観点からも、総合評価を増やすとともに、県土づくりに貢献している会社への評価をお願いしたい。(3件)

「技術提案型」や「簡易型(実施方針型)」での発注を増やしていただきたい。(2件)

技術力を要する内容に採用し、定型業務には採用しない方が良い。

(表彰加点について)

表彰加点は管理技術者として従事した業務となっている。担当従事も可としていただきたい。

発注量に対し、表彰件数が若干少なく感じる。

表彰の配点(価値)が低いのでは。

(地域要件について)

地域要件をもっと重視して欲しい。

地域で縛らず柔軟に評価をお願いしたい。

本店又は主たる営業所の所在地についての項目は、除いて欲しい。

(申請書等の提出期限について)

質問回答から申請期限の日数が2日と短いため、申請書の提出期限を延長してほしい。(3件)

落札候補者の事後審査書類の提出期限をもう少し長く設定してほしい。

(その他)

手持ち業務件数についてはもう少し件数が多くても配点した方が良い。(5件)

配置予定技術者の業務成績評定は、県以外の実績も評価していただきたい。(2件)

業務に真摯に取り組む優良な成果品を収めれば、次の受注につながる制度となるよう、改定を都度重ねてほしい。

評価対象として、えるぼし認定、くるみん認定を追加してほしい。

国土交通省で採用されている方式であれば、馴染みやすく、より一層活性化していくのではないかな。

人材活用での加点(若手技術者、女性技術者、シニア技術者等)となる評価項目の検討をしてほしい。

技術者の業務評定対象期間については、くじでの落札決定が多く継続受注が困難であるため、長い期間でしてもらえると優秀な技術者を配置出来る可能性が広がる。